



7月の園だより

令和 7 年 7 月 1 日

目黒区立中町保育園 園長

職員による園内研修では『子どもへの理解を深める』というねらいのもと、様々な取り組みを行っています。第一回目は『保育園の2階フロアにある物を使って乗り物を作る』というお題で実践を行いました。3つのグループに分かれ、製作時間は15分程度、完成後にお披露目をします。Aグループは海賊船、Bグループは消防車と救急車、Cグループは未来の世界のネコ型ロボットのアニメに登場するタイムマシンを製作し、いかにその乗り物が素晴らしいかを身振り手振りでプレゼンテーションして、盛り上がりの中で終了しました。乗り物に使えるような道具を探している時は真剣さと好奇心が入り混じったような表情を見せ、各グループからは「こうしてみようか」「それ、いいね」と賑やかなやり取りが聞こえてきます。どちらかという控えめなタイプの職員がグループの作品を自信たっぷりに紹介している姿を見て、製作に費やした時間が充実していたことが感じられました。

考えたり試したり、工夫したり表現したりする力は、日々の生活や遊びを通して培われていきます。遊びが仕事の子どもたちの手にかかれば“発想力も柔軟性もかなわない”と脱帽するような乗り物が完成したと想像しながら、職員もほんのひと時遊びに没入することで、子どもの気持ちにもう一步近付けた気がしました。園内研修で得た成果を個人の学びとして留めず、園全体の保育の力にしていきたいと思う取り組みでした。「この乗り物を子どもたちが見たら何て言うだろう」「明日までこのままにしておきたいね」と言葉にしながら職員一人ひとりが思い描いたのは、子どもたちが自由に元気いっぱい遊ぶいつもの幸せな光景だったと思います。



海賊船



消防車・救急車



タイムマシン

行事予定

プール開き (3・4・5歳児)
水遊び開始 (0・1・2歳児)
七夕
笹焼き

中旬 身体計測 避難訓練

／ クリン君です ／



し・げ・んってなんだろう

6月に3・4・5歳児クラスが環境教室に参加しました。クリン君から紙芝居でゴミの分別や『資源』についてわかりやすく教わり、実際にゴミ収集等を体験できるコーナーで、楽しみながら学びました。普段よく目にするペットボトルが資源として様々なものに生まれ変わることを知ったあとは、分別クイズコーナーで早速その知識を活かして答えています。「このゴミは何ゴミでしょうか」という問題では「空き缶は新幹線になるんだよね」「ペットボトルは服でしょ」「絵本はトイレットペーパーになる」ということは…「資源ごみだ」と自信たっぷりで。「では、このぬいぐるみはどうでしょうか」と聞かれると「しげん…かな」と答える子がいましたが、燃えるゴミだと聞いて「え〜っ、可愛いのに かわいそう」と言っていました。ゴミを分別する大切さや、資源はゴミではなく、身近な物へと形を変えて再生されることを知った子どもたちは「これは何になるんだろうね」と考えながら関心・興味を広げていました。



おひさま組 (5歳児)

夏が近付き、子どもたちに「おひさま組が、おまつりごっこでお店屋さんになって、お客さんと呼ぶのはどうかな」と提案すると「いいね やりたい」と声が上がりました。どんな店にするか話し合うと「レストランがいいかな」「でも、本当には食べられないよ」「ゲームだったら楽しめるんじゃないかな」と色々な意見が出て、最終的に『ワニワニぱっくん』『輪投げ』『金魚すくい』に決定しました。3店舗に分かれ、当日に向けた準備を進めていきます。同じ店を担当する子同士での話し合いでは「ワニは怖くしてみようよ」「金魚の顔は可愛くしよう」「輪っかは小さい子が持てるように細くしたらどうかな」等と、お客さんのことを考えながらアイデアを出し合っています。看板やポスター製作では「〇〇ちゃん、この字書いてくれる?」「こっちは私が書く」「小さい子にもわかるように絵も描かないと」と協力して作っていました。コツコツと準備して迎えたお祭り当日、開店前にはねじり鉢巻き姿で「えい えい おー!」と気合い十分です。前半の0・1・2歳児クラスがやって来ると「金魚すくい やる?」「一緒にやろうか」と手をつないで導き、遊び方を教える姿が見られます。年下の子に目線を合わせ、優しくリードしている場面を見ると、年長児クラスとしての心の育ちを感じることが出来ました。大盛況で終わった後は「ワニをいっぱい動かして腕が疲れちゃった」「お客さんがいっぱい来て大変だった」と言いながらも「おひさま組だから出来たんだよね」と表情は達成感に溢れ、自信に繋がった様子が

感じられました。



そ~れ それ

それ お祭りだ~

もも組・たんぽぽ組 (0・1歳児)

もも組は抱っこで雰囲気を感じたり、実際に参加したりして楽しみました。輪投げコーナーで輪を受け取り「ここに入れるんだよ」と教えてもらったり、保育士が輪を入れる様子を見て真似してやってみたりしました。「入ったね」と一緒に喜びと嬉しそうに保育士を見ながら“もう1回”と何度も挑戦していました。

たんぽぽ組もお祭り会場に到着すると、いつも園庭で一緒に遊んでくれるおひさま組から「こっちだよ」と誘われ、縁日を目にして「あっ」と嬉しそうです。『ワニワニぱっくん』のコーナーでは、箱からワニが出たり隠れたりする様子が面白くて、ワニが隠れてしまうと「おーい」と呼びかけていました。おひさま組がその声に反応してワニを出す度に大喜びでした。



ちゅうりっぷ組 (2歳児)

お祭りに参加した日の午後、保育室にある牛乳パック積み木とラップ芯を使って『ワニワニぱっくん』を再現してみたところ、子どもたちが「やりたい」と集まってきました。ワニの叩き棒代わりにラップ芯が動くワニに当たると、嬉しくて笑顔を見せています。実際の縁日ではお客さんでしたが、自分でも動かしてみたくて店員役になる子もいました。保育士が「他にどんなお店があったかな」と聞くと、縁日のポスターを指さして「このお魚のもあったね」と金魚すくいを思い出す子がいました。お手玉とままごと玩具のリングを持って来ると「これ お魚」「これで取る」と、子どもの発想で即席の金魚すくいが出来上がりました。楽しかった経験や印象に残った場面を身近な玩具を使って再現し、クラスでも楽しんでいます。

